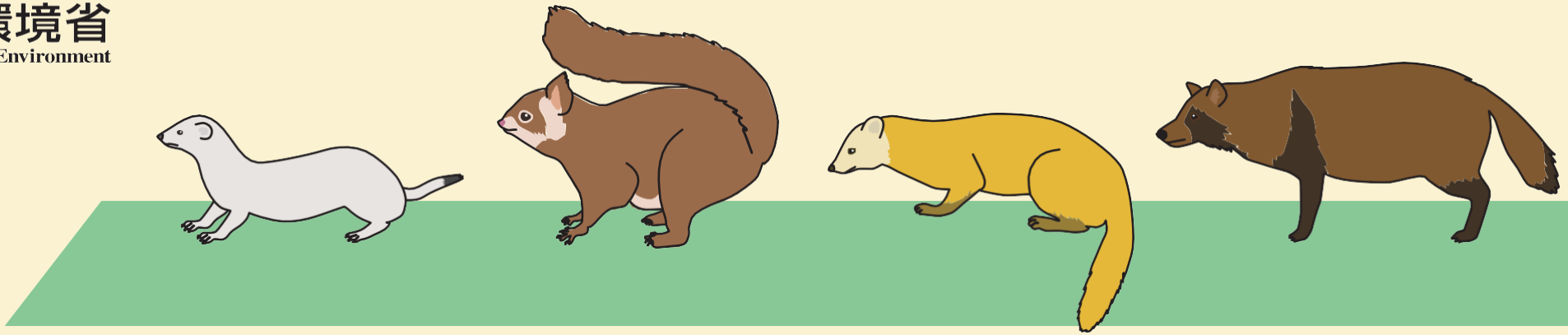
環境省
Ministry of the Environment



狩猟鳥獣の見分け方
～誤認捕獲の防止のために～

（一部改定版）





はじめに

●本パンフレットは、狩猟において、狩猟鳥獣を正しく判別し、誤認捕獲を防止するとともに、正しい鳥獣種名を報告することを目的として作成しました。

●誤認捕獲は違法です※1。また、狩猟鳥獣ではない鳥獣の捕獲は、鳥獣の生息状況に悪影響を与える恐れがあります。

※1：狩猟鳥獣以外の鳥獣の捕獲は、『鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護管理法）』において禁止されています。このような誤認捕獲をすると、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金が科せられる場合があります。

皆様からご報告いただく捕獲情報は役に立ちます

●鳥獣の捕獲場所や捕獲数から、鳥獣の生息状況を把握することができます。この情報をもとに、保護や管理の計画を立てています。

●狩猟者登録証の裏面に、捕獲した鳥獣の種類、場所、数を記載する欄があります。必要事項を記入し、登録証を返納しましょう。※2,3

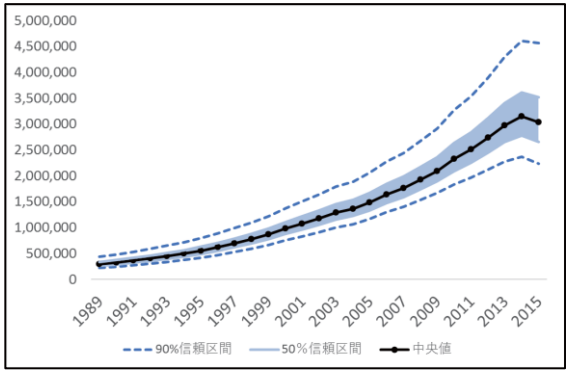
●適切に生息状況を把握すると、狩猟資源を適切に管理することができるため、狩猟者にとっても有益です。

※2：鳥獣保護管理法第66条において、狩猟者登録を受けたものは狩猟の結果を有効期間の満了日より起算して30日までに、登録都道府県知事に報告することが義務付けられています。報告をしない場合や虚偽の報告を行なった場合、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。

※3：都道府県によっては、出猟カレンダーなど、別の様式での報告を求められることもあります。自分が登録している都道府県の報告方法を確認しましょう。

捕獲情報の活用例

捕獲数を使って、動物の個体数を推定しています。狩猟資源を維持・管理していくために、捕獲禁止・制限措置の実施又は解除の必要があるか等を判断する材料になります



1989～2015年までのニホンジカの推定個体数

鳥獣の判別ポイント　誤認捕獲をしないために

大きさや形、色などの形態



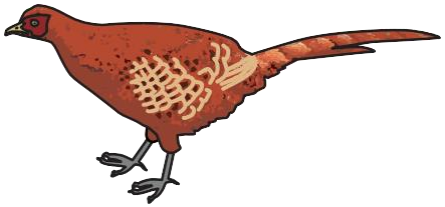
イタチ（オス）



オコジョ

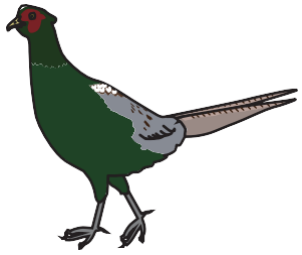
■形が似ていても大きさや色が違います

好んで生息する環境（分布、営巣場所など）



ヤマドリ

おもに、標高の高い山（谷）に生息



キジ

おもに、人家に近い山林や草原に生息

■見た目が似ていても、好んで生息する環境が違います

飛び方、走り方や歩き方などの行動の特徴



陸ガモ

一気に急角度で飛び立つ



海ガモ

水面を蹴りながら滑走して飛び立つ

■見た目が似ていても、
飛び方（や行動）が違います

判別に自信が持てないときは捕獲をやめましょう

狩猟鳥獣を見分けるポイント｜鳥類①

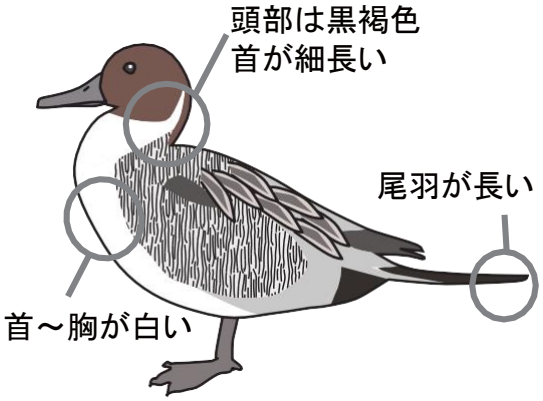
狩猟鳥獣



マガモ（オス）



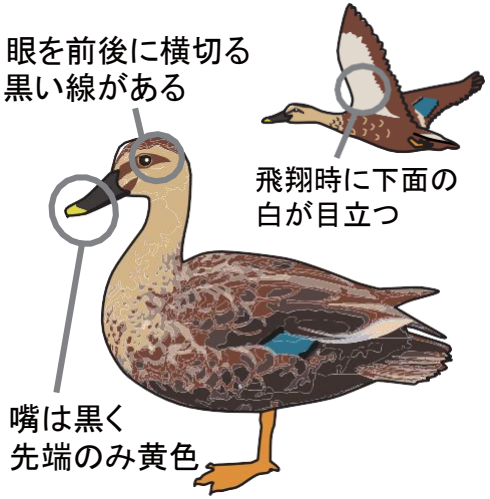
ヒドリガモ（オス）



オナガガモ（オス）



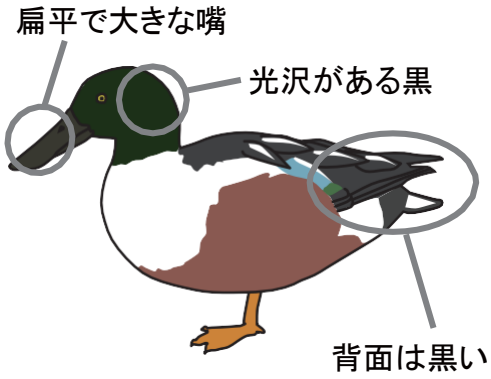
ヨシガモ（オス）



カルガモ



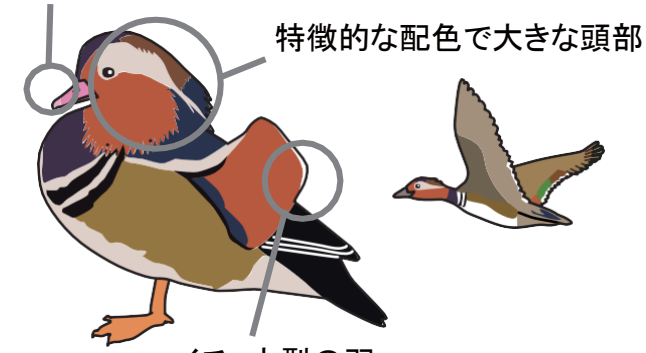
コガモ（オス）



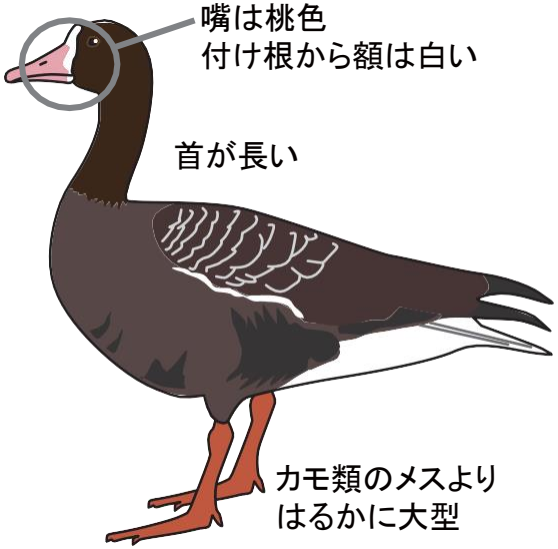
ハシビロガモ(オス)

メスは、オスと比較して判別が難しいため、自信がないときは捕獲をやめましょう。

誤認されやすい非狩猟鳥獣



オシドリ（オス）



マガン



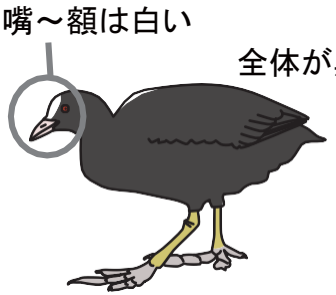
ウミアイサ（オス）



トモエガモ（オス）



ホオジロガモ（オス）



オオバン

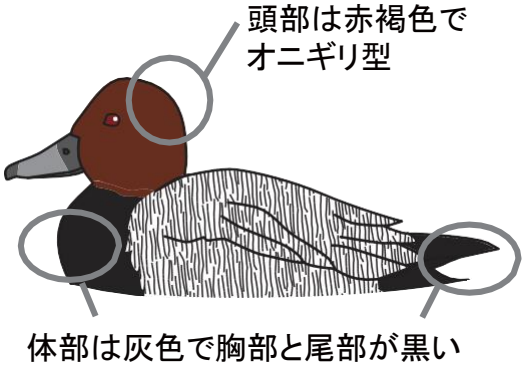


バン

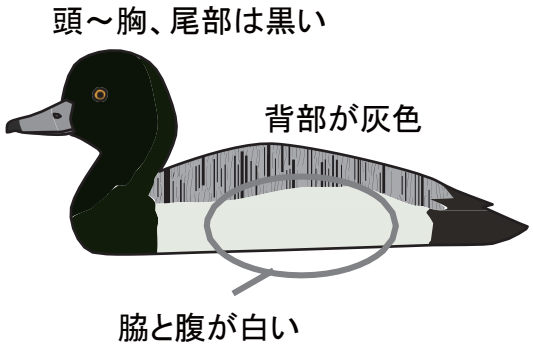
※バンは、全国鳥類繁殖分布調査により、生息が確認されている地点数が大幅に減少している ことが明らかになったため、令和4年9月15日にゴイサギとともに狩猟鳥獣から外れました。

狩猟鳥獣を見分けるポイント｜鳥類②

狩猟鳥獣



ホシハジロ（オス）



スズガモ（オス）



キンクロハジロ(オス)



クロガモ（オス）

クロガモの誤認について

クロガモが正しく判別されたうえで捕獲されているかを明らかにするため、クロガモの捕獲を報告した狩猟者と、その捕獲場所の鳥類の生息状況に詳しい専門家に対し、ヒアリング調査を行ないました。

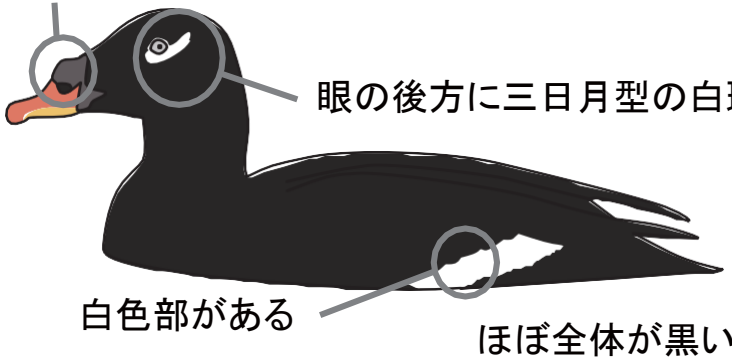
その結果、
- 捕獲場所とされていた地域は、クロガモがほとんど飛来・生息していない地域であること
- クロガモの捕獲を報告した狩猟者は、スズガモやカルガモをクロガモと誤認して捕獲していたこと

が分かりました。

このような誤認は、狩猟資源の適切な維持・管理を妨げる原因となりますので、見分けるポイントを頭に入れて、狩猟鳥獣を正しく判別しましょう。

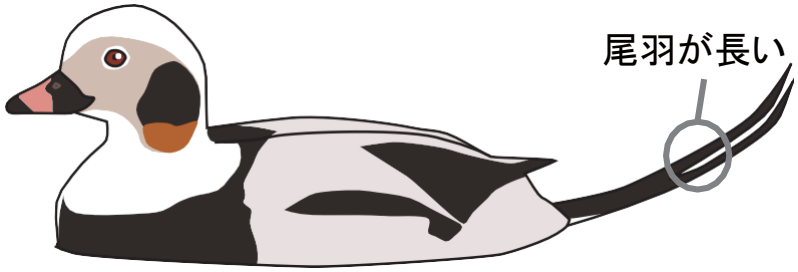
誤認されやすい非狩猟鳥獣

嘴は赤く、先端が黄色
基部には黒いコブがある



ビロードキンクロ（オス）

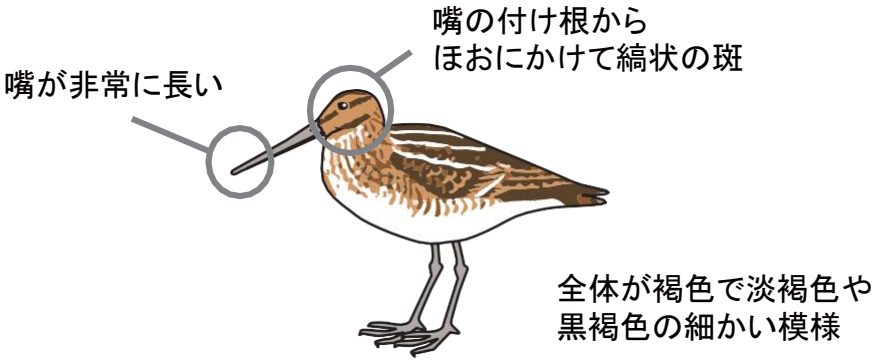
ほぼ全体が白い
ほお・胸～背・翼の中央が黒い



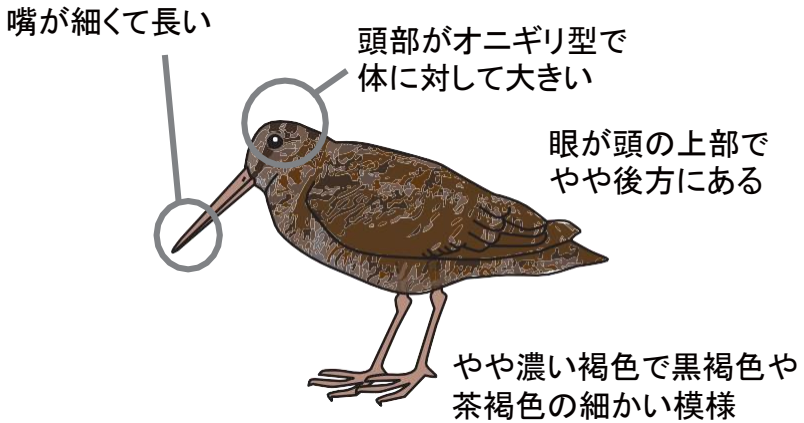
コオリガモ（オス）

狩猟鳥獣を見分けるポイント｜鳥類③

狩猟鳥獣



タシギ



ヤマシギ

※非常に形態が似たアマミヤマシギ（非狩猟鳥獣かつ天然記念物）が奄美諸島と沖縄島に生息するので注意

誤認されやすい非狩猟鳥獣

嘴は黒い

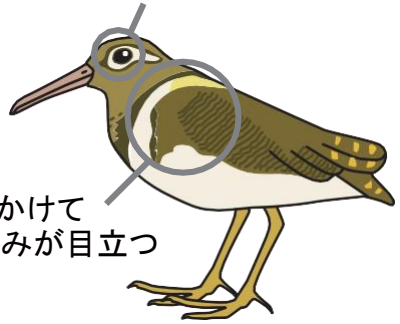
上面は暗褐色で
顔～胸、足は赤褐色



黒地に白い横縞

ヒクイナ

目の周囲には黄味を帯びた白斑

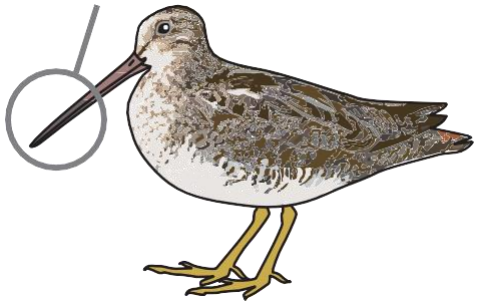


肩から胸にかけて
白い切れ込みが目立つ

メスはオスより鮮やかで
顔～胸に赤みがあり背面は暗褐色

タマシギ（オス）

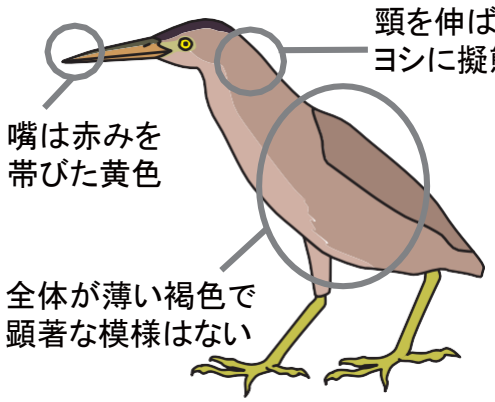
嘴がタシギより太く短め



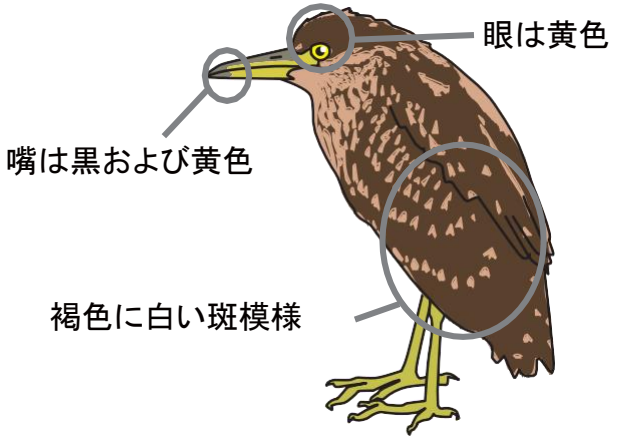
タシギよりも大きい

オオジシギ

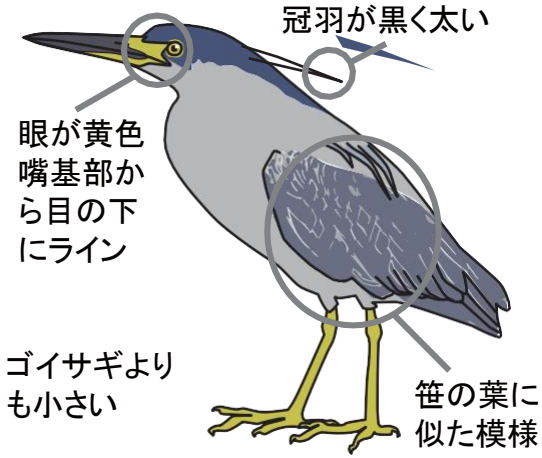
誤認されやすい非狩猟鳥獣



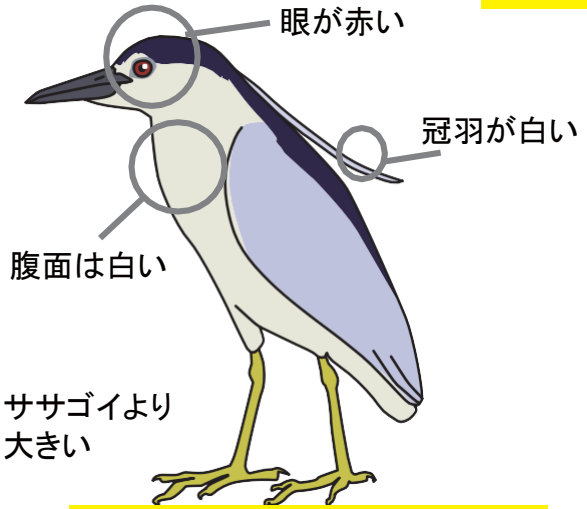
ヨシゴイ



ゴイサギ幼鳥



ササゴイ



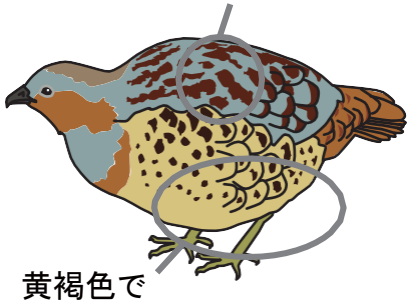
ゴイサギ成鳥

※ゴイサギは、全国鳥類繁殖分布調査により、生息が確認されている地点数が大幅に減少している ことが明らかになったため、令和4年9月15日にバンとともに狩猟鳥獣から外れました。

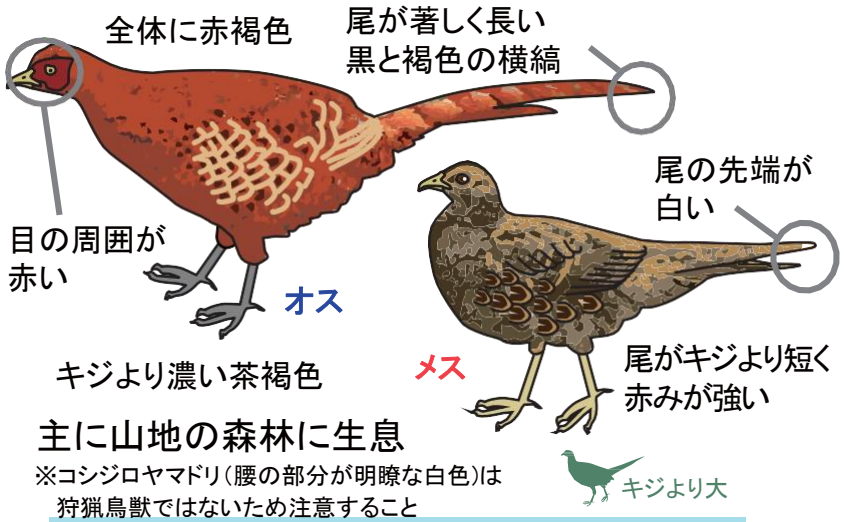
狩猟鳥獣を見分けるポイント｜鳥類④

狩猟鳥獣

コジュケイ



ヤマドリ



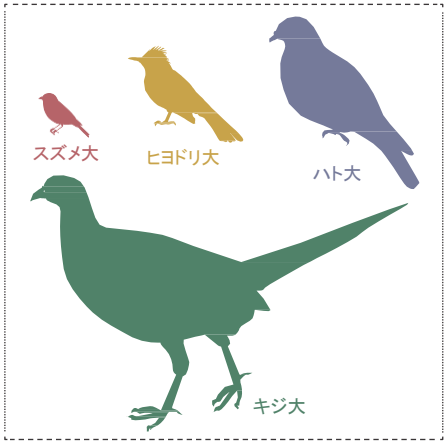
主に山地の森林に生息

※コシジロヤマドリ（腰の部分が明瞭な白色）は狩猟鳥獣ではないため注意すること

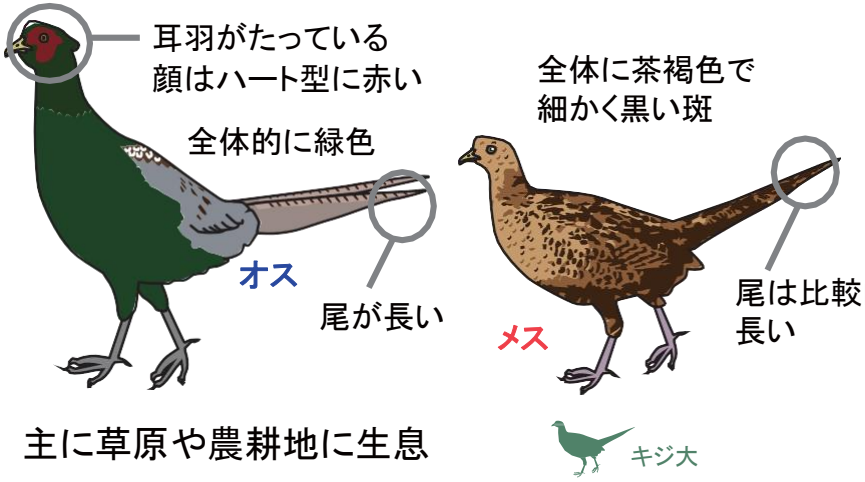
ヒヨドリ



波型の独特の飛び方

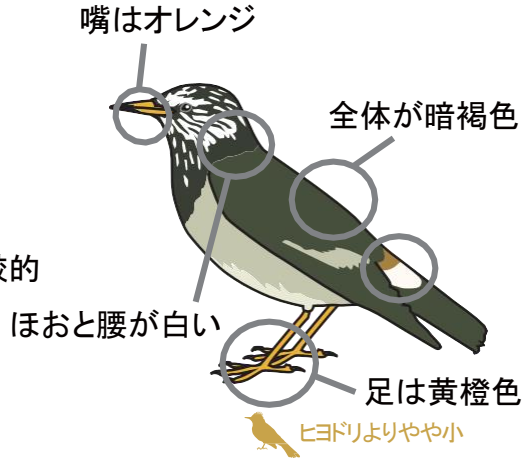


キジ



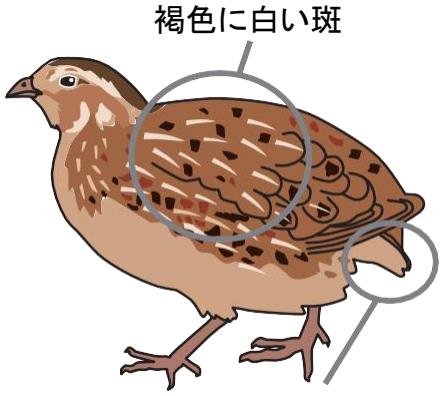
主に草原や農耕地に生息

ムクドリ



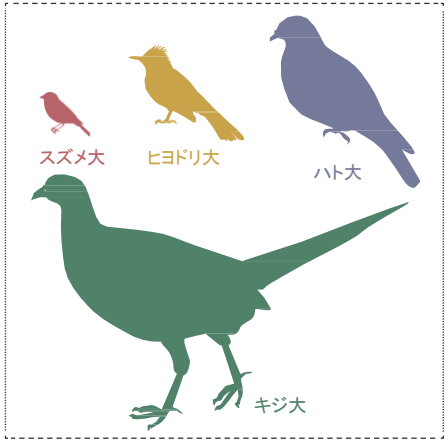
※ヤマドリ（メス）とキジ（メス）は、決められた猟区以外では、捕獲が禁止されています

誤認されやすい非狩猟鳥獣



ヒヨドリよりやや小

ウズラ





ハト大

カケス



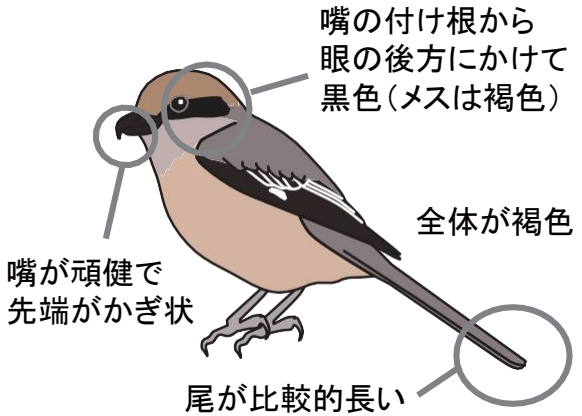
尾羽をのぞくと
ヒヨドリよりやや小

オナガ



ヒヨドリよりやや小

ツグミ

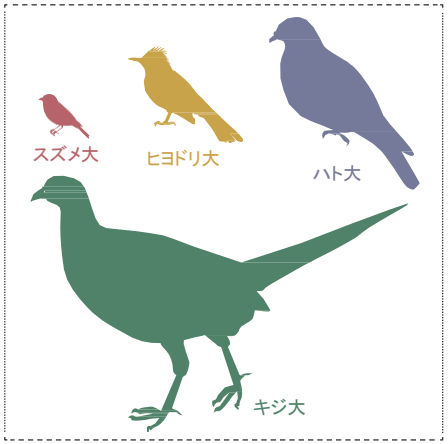


スズメより大

モズ

狩猟鳥獣を見分けるポイント｜鳥類⑤

狩猟鳥獣





キジバト



ニュウナイスズメ（オス）



スズメ

誤認されやすい非狩猟鳥獣



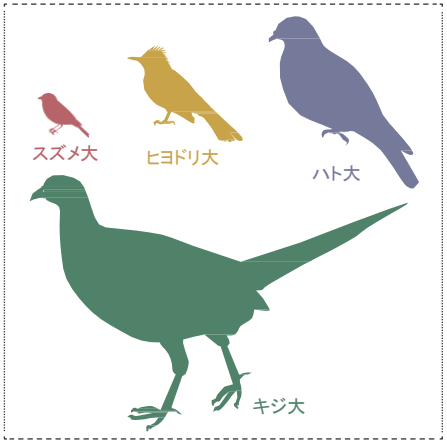
アオバト



ドバト



ホオジロ





カワラヒワ



カシラダカ

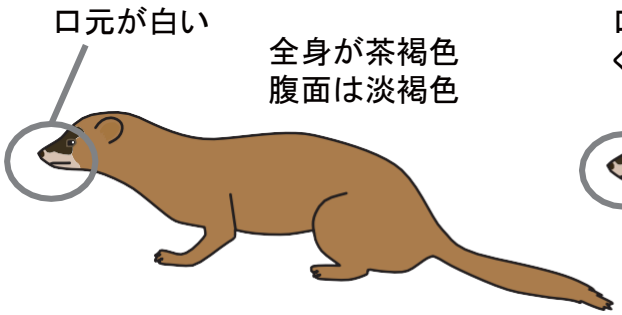
狩猟鳥獣を見分けるポイント｜獣類①

狩猟鳥獣



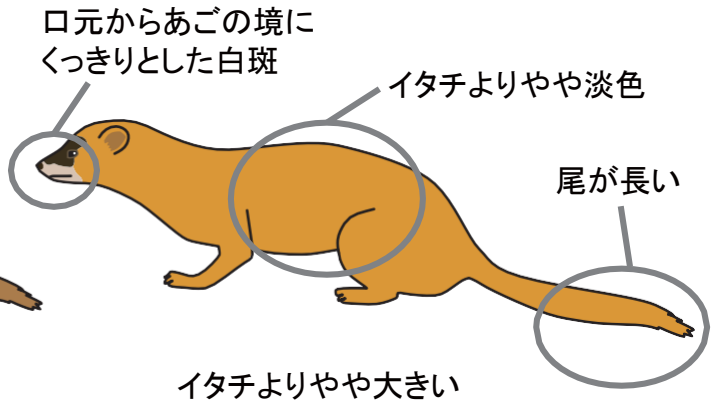
タイワンリス

※（「クリハラリス」として）特定外来生物



メスのイタチよりも淡色である傾向全長は約40～60cm

イタチ（オス）



イタチよりやや大きい

シベリアイタチ

※長崎県対馬市の個体群以外の個体群



シマリス



全長は約65cmで
イタチより大きい

テン



全長は約70cmで
イタチより大きい

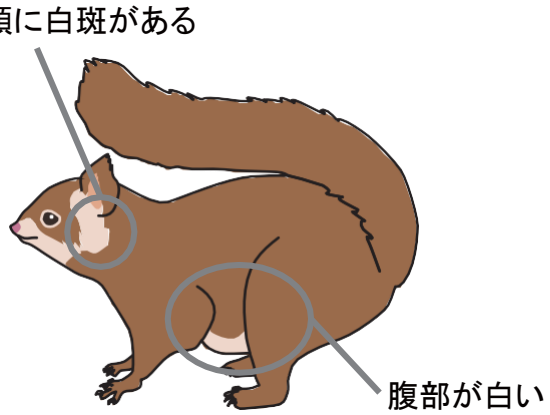
ミンク

※（「アメリカミンク」として）特定外来生物

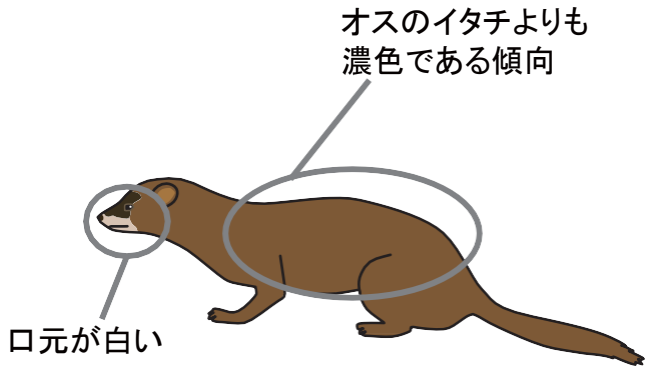
誤認されやすい非狩猟鳥獣



ニホンリス

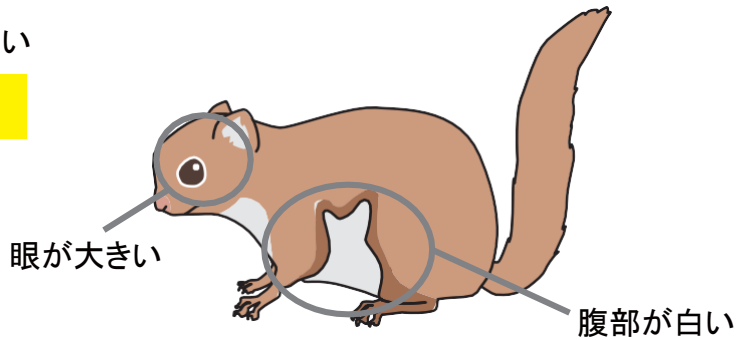


ムササビ

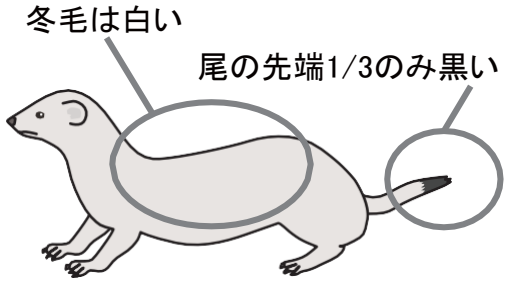


大きさはオスのイタチの
1/2～2/3程度

イタチ（メス）



モモンガ

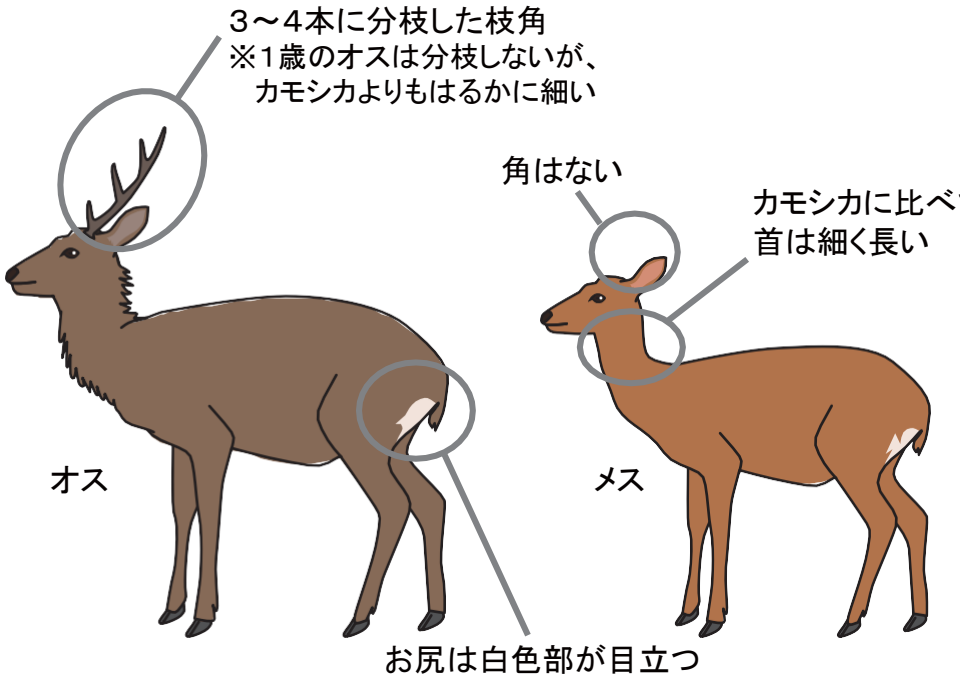


大きさはイタチ・ミンクの半分以下
（全長約20cm）

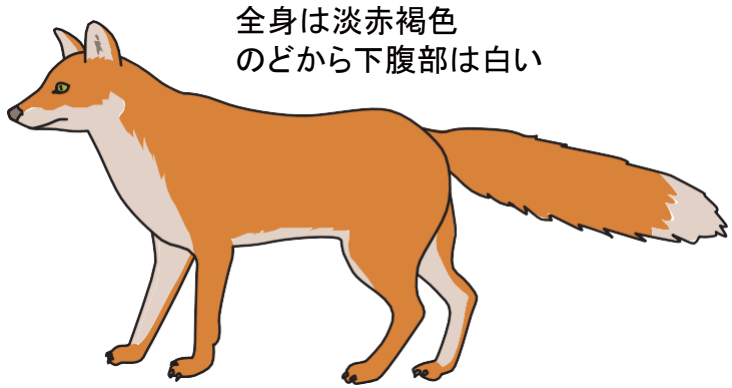
オコジョ

狩猟鳥獣を見分けるポイント｜獣類②

狩猟鳥獣



ニホンジカ



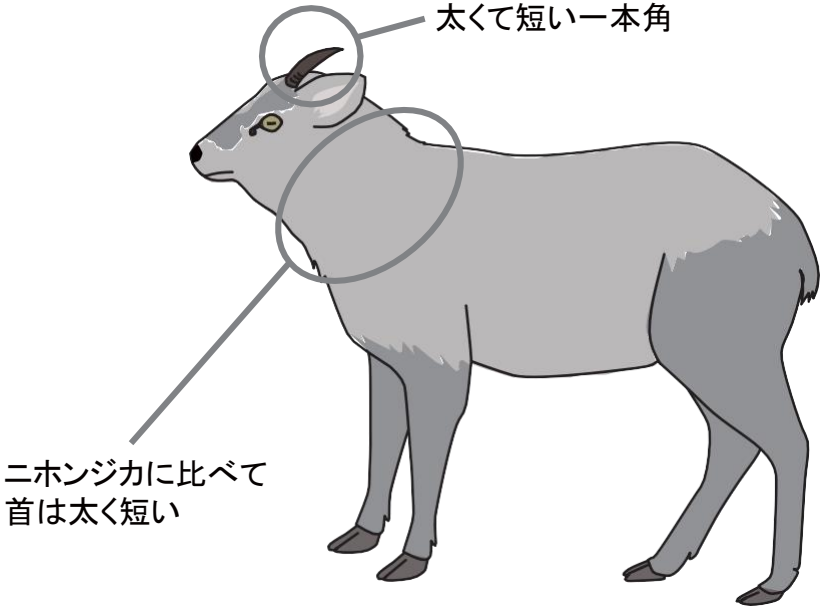
日本産の野生種に似たものはいない

キツネ

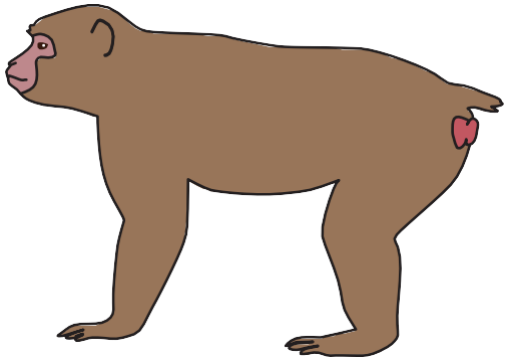
メスジカの積極的な捕獲にご協力ください

ニホンジカによる農林業被害や自然生態系への被害が、全国各地で深刻化しています。被害を減らすためには、ニホンジカの個体数を減らすことが重要です。そのためには、メスジカを積極的に捕獲することが有効です。なぜなら、ニホンジカは一夫多妻制であるため、オスの数を多少減らしたとしても、繁殖に参加できるオスが1頭でも残っていれば、多くのメスは妊娠・出産することが可能です。これでは、捕獲されたオスの数だけ個体数を減らすことができたとしても、個体数の増加傾向に歯止めをかけることはできません。したがって、ニホンジカの個体数を減らすために、できるだけメスを積極的に捕獲していただくようお願いいたします。

誤認されやすい非狩猟鳥獣



カモシカ



ニホンザル

被害防止目的での捕獲が多数行われているが、
狩猟鳥獣ではないため要注意！

※キョンも誤認されやすい非狩猟鳥獣ですので、ご注意ください（イラスト準備中）。

中型狩猟獣を見分けるポイント｜かお編

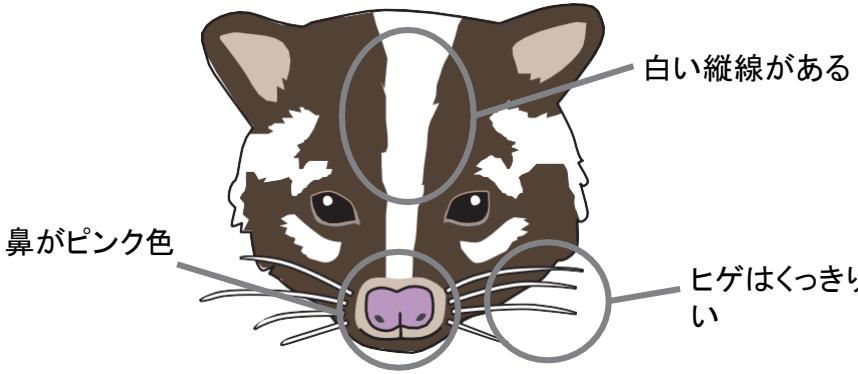
狩猟鳥獣



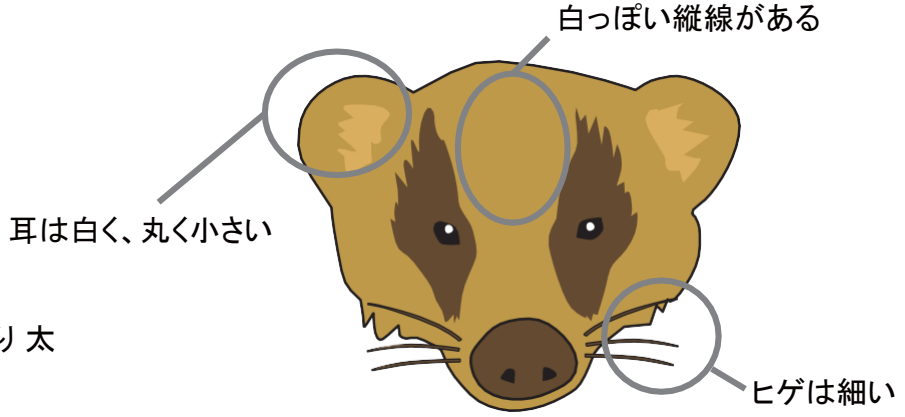
アライグマ



タヌキ

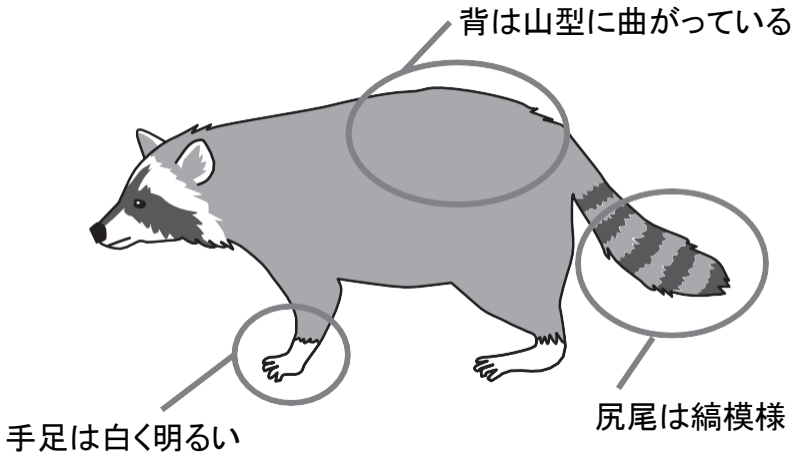


ハクビシン



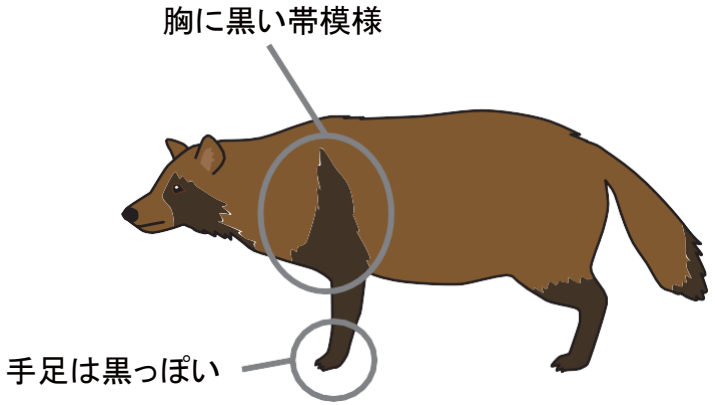
アナグマ

中型狩猟獣を見分けるポイント｜からだ編

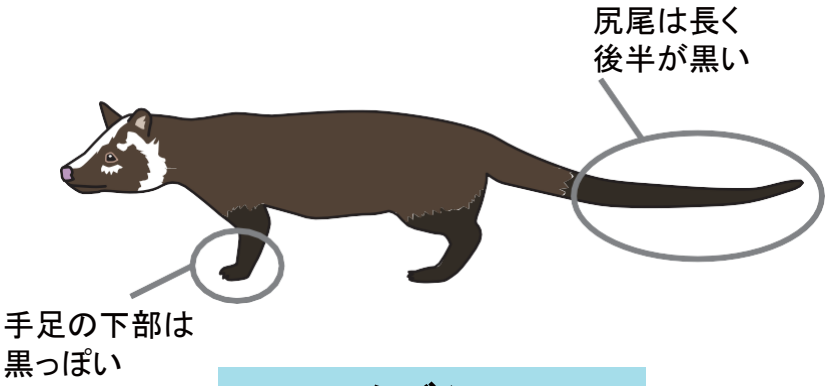


アライグマ

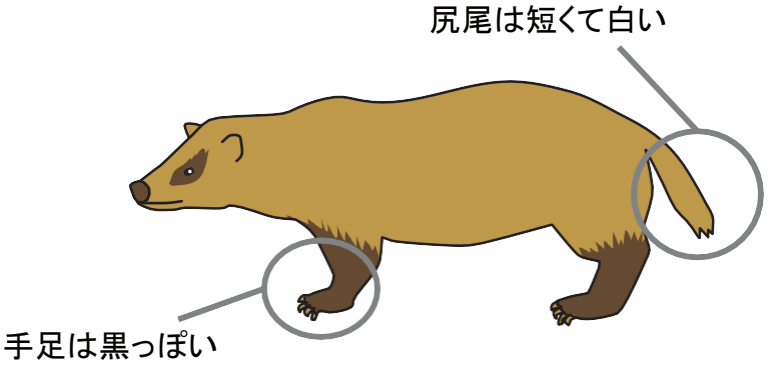
※特定外来生物



タヌキ



ハクビシン



アナグマ

環境省
Ministry of the Environment

狩猟鳥獣の見分け方　～誤認捕獲の防止のために～

発行　環境省 自然環境局 野生生物課 鳥獣保護管理室
制作　株式会社野生鳥獣対策連携センター
デザイン　米澤里美